



CSR Report

関西テレビ 2013年度 CSR 報告書



Corporate Social Responsibility

企業の社会的責任



子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感動にみちあふれています。

残念なことに、私たちの多くは大人になるまえに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきもへの直感をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

子どもの未来は、さまざまな社会問題に大人がどう向き合いかにかかっています。

しかし、大人だけで問題に取り組むと、正しさを競うことに終始し、あるいは枝葉末節にこだわるあまり、ともすれば理屈が先行し、問題の本質を見失いがちになります。

私たちは、子ども心を常に忘れずに、子どもとともに社会課題に取り組んでいきます。

Index

もくじ

8	7	6	5	4	3	35	34	33	32	30	29	28	27	16	14	13	12	8	6	
内部統制システムおよびリスクマネジメント体制	視聴者の皆さまとともに	次世代育成の取り組み	アナウンサーによる取り組み	人権への取り組み	環境への取り組み	「インタビュール」	「インタビュール」	「インタビュール」	「インタビュール」	2 コミュニティーへの参画の取り組み	「インタビュール」	「インタビュール」	1 メディアアリテラシー推進活動の取り組み	関テレと人	2 信頼されるライフラインとしての取り組み	「インタビュール」	「インタビュール」	1 エリアで最も必要とされるコンテンツメーカーとしての取り組み	経営ビジョン	はじめに
						NPO法人が関西テレビに期待すること	大学が関西テレビに期待すること	ネパールフェスを終えて	地元が関西テレビに期待すること	行政が関西テレビに期待すること		出前授業を終えて	映像制作支援プログラムを体験して			ニュースを伝える上で心がけていること	関西テレビ開局55周年記念を終えて		代表取締役社長 福井澄郎	

編集方針

関西テレビ放送ではCSR推進局の「メディアアリテラシー部」を2013年度から「CSR推進部」に名称変更しました。在阪放送局ではいち早く「CSR」という言葉を部署名に冠し、積極的にこれに取り組んでいます。

『関西テレビCSR報告書』では、まず経営ビジョンを具体化するものとして「エリアで最も必要とされるコンテンツメーカーとしての取り組み」「信頼されるライフラインとしての取り組み」をご紹介し、続いて国際規格ISO26000のガイドラインに沿いながら「戦略的CSR(攻めのCSR)」としてコミュニティーへの参画・環境・人権などへの取り組みを、また「基盤的CSR(守りのCSR)」として視聴者の皆さまへのご対応・ガバナンス・コンプライアンスの状況などを記しました。(※本文中の所属・肩書などは2013年度のものです。)

関西テレビ放送株式会社CSR推進局CSR推進部
530-8408 大阪市北区扇町2-1-7
Tel:06-6314-8094 Fax:06-6314-8189
E-mail:csr@ktv.co.jp

発行日:2014年6月23日



この冊子は100%再生紙を使用
して制作しています。

はじめに

2013年度の日本は、東アジアに新たな緊張がもたらされたものの、アベノミクスの効果などで経済が確実に上向いています。そんな中で関西テレビは開局55周年を迎えました。33本に及ぶ記念番組、13本の記念イベントを創り、大変活気のある年になりました。

特に11月23日、24日の2日間、本社屋のある扇町公園を中心とした「GO!GO!カンサイGO!GO!カンテール感謝祭」では3万人の方にお越しいただいて改めてテレビ局の持つ影響力を再確認しました。

また2020年の東京オリンピック開催が決定するという明るいニュースもありました。テレビ局にとっては4K・8K、あるいはハイブリットキャストといった新たなイノベーションの波が、東京五輪を目指して加速しています。

放送事業を継続すること―これこそが放送局の最大のCSRであると考えます。技術革新の戦略を練り、改めてコンテンツを作る力を鍛え上げて参ります。コンテンツ制作力こそが、放送事業を支える源泉だからです。

「エリアで最も必要とされるコンテンツメーカーになる」「ライフラインとして信頼される放送局になる」という経営ビジョンは私たちの目指すべき指針であり、絶え間ない努力を惜しむなという自戒のスローガンでもあります。11月には社屋名を「関テレ扇町スクエア」と改名し、1階の広い空間を4K映像が表示できる16面モニターのあるテレビ局らしい空間にリニューアルしました。ここを活用し、地域の方々と共有できるようなイベントを行い、街づくりの一端を担いたいと思っています。

視聴者の皆さまには、このレポートを是非ご覧いただき、厳しいご意見や励ましをいただければ望外の幸せです。



代表取締役社長

福井 澄郎
Sumio Fukui

エリアで最も必要とされる
コンテンツメーカー
としての取り組み



正しく豊かなコンテンツを継続して提供することこそが当社のCSRの基本であると考えます。今年度も正確にして迅速な報道や良質な娯楽番組を提供し社会的役割を果たしました。

まず、全国ネットドラマとして手掛けている火曜日22時枠では「幽かな彼女」(主演:香取慎吾)「スターマン・この星の恋」(主演:広末涼子)「よろず占い処 陰陽屋へようこそ」(出演:錦戸亮)「チーム・バチスタ4螺旋迷宮」(主演:伊藤淳史、仲村トオル)と話題性のある作品を放送しました。4月と10月の改編では「明るく楽しいバラエティ番組の復権」を掲げ、多くの意欲的で斬新なバラエティ番組を制作しました。

また今年度は開局55周年記念の年でした。「神様のベレー帽〜手塚治虫のブラック・ジャック創作秘話〜」(主演:草彅 剛)や「Y・O・U やまびこ音楽同好会」(主演:桐谷健太)の2本のドラマのほか、29本のバラエティ、スポーツ番組、ドキュメンタリー番組を制作しました。



スターマン・この星の恋



チーム・バチスタ4 螺旋迷宮



Y・O・U やまびこ音楽同好会



スーパーニュースアンカー



みんなの学校



開局55周年記念カンテール感謝祭 扇町公園のにぎわい

報道番組に関しては、夕方のニュース番組「スーパーニュースアンカー」のメインキャスターが、山本浩之アナから岡安譲アナへバトンタッチされたのが大きな話題でした。ドキュメンタリー番組は8本制作し、その中の「みんなの学校」は文化庁主催の芸術祭大賞他さまざまな賞を頂きました。

コンテンツの海外展開では、往年の名番組「パンチDEデート」をベトナムにフォーマット販売したところ、人気を得てレギュラー番組になりました。

また、人気ドラマ「GTO」の台湾版にもチャレンジしています。

映画事業では関西テレビの社員が監督を務めた「県庁おもてなし課」(主演:錦戸亮)をはじめ、「ニシキノユキヒコの恋と冒険」(主演:竹野内豊)「チーム・バチスタ FINALケルベロスの肖像」(主演:伊藤淳史、仲村トオル)の映画に携わりました。

イベント事業では開局55周年記念企画として、「復活! 夢の乱入者」「GeGeGe水木しげるの妖怪樂園」「Endless SHOCK」「藤城清治ファンタジー展」「THE TIGERS2013」「ミュージカル・愛の唄を歌おう」など話題作を連発し、13本のイベントをプロデュースしました。

このようにエリアで最も必要とされるコンテンツメーカーになるべく奮闘した一年でした。

視聴者の皆さまに良質の番組を届けるために、すべてのスタッフが公共的使命を担うという自覚を持って番組の制作・放送に取り組んでいます。

経営理念・放送理念などに基づいて制定された「関西テレビ放送 放送基準」を常に意識し、遵守に努め、コンプライアンスの実効性を確保するため、定期的に「放送倫理会議」を開催しております。また、外部の有識者が第三者の視点に立ち、番組や放送全般について広く論評・注意喚起・提言を当社に対して行うオンブズ制度「オンブズ・カンテレ委員会」を2008年から設置しています。

放送に関わるすべてのスタッフに「関西テレビ放送番組制作ガイドライン」を配布し、その徹底を図っています。昨年、当社制作の番組でBPO（放送倫理・番組向上機構）放送倫理憲章委員会で審議される案件が2つも起こりました。このようなことがないように自主・自律の不断の取り組みを行って再発防止に努めています。

受賞作品

Award

	作品名	放送日	受賞	内容
ドラマ	「レッスンズ」	2011/11/27	ニューヨークフェスティバル TV映画 / ドラマスペシャル部門銅賞	父子家庭に育った女子大生と、彼女が家庭教師をするようになったアダルト・チルドレンを母に持つ少女との交流を描いた作品。 出演：鈴木 杏、田崎 アヤカほか
	「ボブラの秋」	2012/11/24	ヒューゴ・テレビ賞 テレビ映画部門銀賞 US国際フィルム & ビデオ祭 エンターテイメント・TV フィルム部門 金賞	人の死という悲しみを乗り越え、一歩前に足を踏み出す勇気を与えてくれる、人と人との温かい絆を幻想的に描いたヒューマンドラマ。 出演：谷村 美月、森口 瑠子ほか
ドキュメンタリー	「夢の途上 ～文楽・人間国宝 の弟子たち～」	2012/10/14	ワールド・メディアフェスティバル ドキュメンタリー芸術番組部門 銀賞 ニューヨークフェスティバル 芸術/ドキュメンタリー部門 銅賞	文楽の人間国宝3人と、文楽の現状に悩みつつ師匠の芸を受け継ぎたいと願う修行を続ける弟子たちの真摯な姿に密着。
	「みんなの学校」	2013/5/5	民放連盟賞 テレビ報道番組優秀賞 第9回日本放送文化大賞 テレビ・準グランプリ 文化庁芸術祭賞 テレビ・ドキュメンタリー部門大賞 第21回坂田記念 ジャーナリズム賞	「子どもたちが、安心して、のびのび過ごせる学校づくり」に取り組む教職員や地域の人たち。小学校の1年間に密着し、今の教育を見つめた作品。
技術	IP回線における 映像の安定 伝送方式開発		映像情報メディア学会 技術振興賞 進歩開発賞 民放連盟賞 技術部門 優秀賞	通信速度が一定でない無線LANの使用に際し、安定した映像伝送を可能にし、テレビ報道の速報性向上に貢献する技術



関西テレビ制作局長

菅沼 満寛

Mitsuyasu Suganuma

昨年11月24日に行った5時間におよぶ大感謝祭生放送スペシャルは、扇町公園でのイベントと連動し、それに関わった社内各局の社員・スタッフの全ての力が結集したものとなりました。大感謝祭スペシャルというタイトルも、視聴者の方々に5年間の感謝を表すんだということとをテーマの大きな柱とし、声を大にして言えた事が良かったと思っています。

5万5千人の笑顔写真を集めるという無謀とも思える大変な企画を短期間に成し遂げたのですが、多くの人の力を得て出来たことで、大きな達成感がうまれました。そして、その経験を乗り越えたことが、次へとつながるステップになったことも大きな成果です。また、スタッフ自身が、楽しむことが「おもてなし」と考え、徹底した事も、会場全体に明るく華やいだ雰囲気を出していたのだと思います。

なによりも、今回の55周年記念は、視聴者へのありがたうの気持ちを伝えるということが出来、それが一番の成功だと感じます。

時代の流れとともに、いろいろな変化を乗り越えて、おもしろい番組をつくっていく、イベントを仕込んでいく、まさに創造的なクリエイティブな仕事に携わっているという喜びをしっかりと噛み締めながら、日々の仕事として頑張っていく事：この開局55周年記念は、そういった気持ちを思い出させる大きなきっかけになったのだと思います。

今後も、視聴者の方々の役に立ち、心の底からハッピーになつてもらえるような、そういうクオリティーの高い番組をどんどん制作していきたいと思えます。



関西テレビ開局 55周年記念を終えて





関西テレビアナウンサー

村西 利恵

Rie Muranishi

私が担当している「スーパーニュース アンカー」は月曜から金曜日の夕方に、全国のニュースを報道する2時間番組です。2時間という限られた時間の中で、その日、起きた出来事を中心に視聴者の方に、きちんと伝えることができるように常に心がけています。

先輩方に教わって来た事の一つに、突発ニュースが入ってきた時の心構えがあります。突発のニュースの内容にその場の全員が瞬時に対応して、きちんと報道出来た時、それが良い報道であると

いうことです。その時、その瞬間で人々の必要とする情報は変わっていきます。そして、それにいかに報道現場のスタッフ全員が瞬時に切り替えて対応する事、それをきちんと伝える事、その事をアンカーは、放送が始まって以来ずっと大切にしています。

それには瞬発力の源となる知識が必要となります。基礎知識が無いと、ニュースの意味が瞬間的に理解出来ず、上手く伝えられないため、日々、新聞や本などから様々な情報を得ています。それでも疑問があるときは、担当記

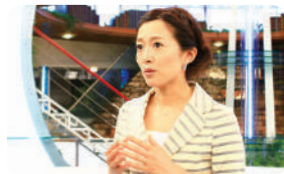
者に直接教えてもらう事もあります。先輩方はものすごい量の知識の引き出しを持っていきます。私も9年間報道に関わらせていただいている事で、やっと引き出しが増えてきたと思います。

最近では、ネットで情報が簡単に得られますが、そういったネットの情報も調べて知った上で、テレビだから知り得る一番最新の情報などを放送していかないといけないと感じています。

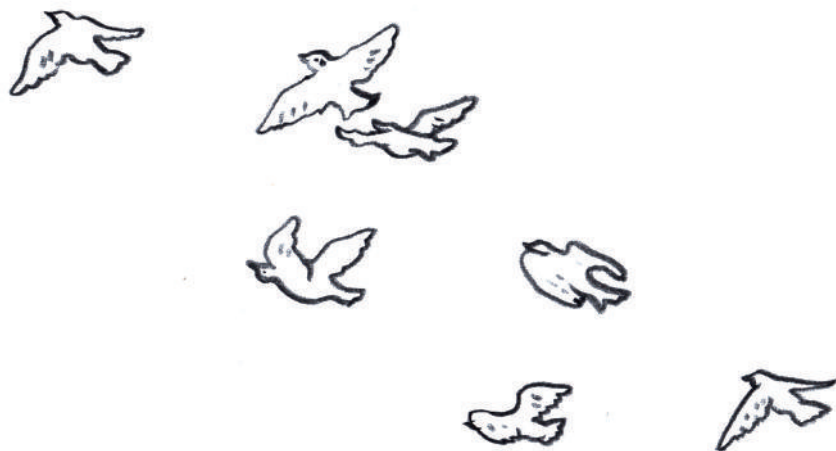


ニュースを伝える上で

心がけていること



信頼される
ライフライン
としての取り組み



大規模災害時におけるテレビ局の最大のミッションは迅速・正確に情報を伝えることです。

そのためには日ごろからの訓練がなによりも大事です。FNNでは、11月9日に南海トラフ巨大地震を想定したKTVを発災局とする疑似特番を編成し、系列局との連携や、災害時における取材手段、伝送手段などの大掛かりな訓練をおこないました。

道路の遮断が想定されるため、被災地の最寄り拠点まで取材班と小型衛星伝送装置をヘリで搬送し、被害の様相を伝える訓練を行ったほか、大阪府庁の新災害対策本部からの中継や、報道局員が技術スタッフなしで使えるミニ中継車で訓練も行いました。その結果を踏まえて新たな課題の抽出や留意点について、今後でも取り組んでいきます。

また「ライフライン」としてのミッションはエリア内だけにとどまらず、被災した局の支援や全国放送のサポートまで視野を広げて、系列内での協力体制づくりも進めています。

その取り組みの一つとして、2013年9月6日・7日の二日間にわたり、東京・台場のフジテレビ本社が災害等により送出機能を喪失したことを想定した合同訓練を行いました。具体的には、報道特番中にフジテレビ本社が機能喪失して放送がブラックアウトすることから始まり、発局を関西テレビに移管しての全国ネット報道特番の継続、全国ネットCMを関西テレビから代替送出してのCMあり全国ネット番組復帰、その間にフジテレビ新宿支局と関西テレビとで連絡を取り合いながら、関西テレビ社内で全国ネットと関東ローカルのタイムテーブルや放送データを作成し、必要な素材を伝送などで手配していくというものでした。

フジテレビが機能喪失した際には関西テレビがその機能を代替するというには両局間で正式に合意し、訓練等を通じて体制を構築しつつあります。関西テレビが機能喪失した時にどうするのか、その体制構築についても次の課題として動き始めています。



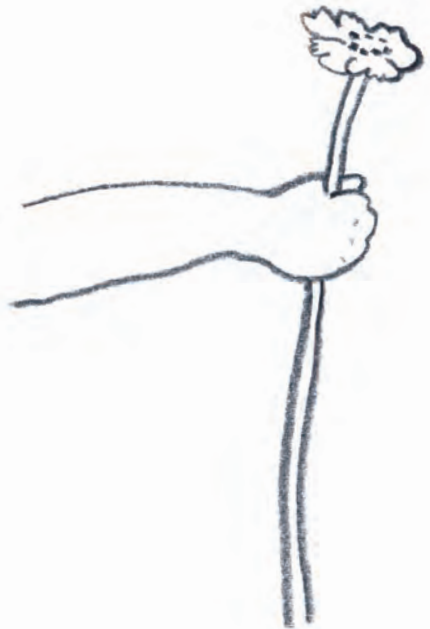
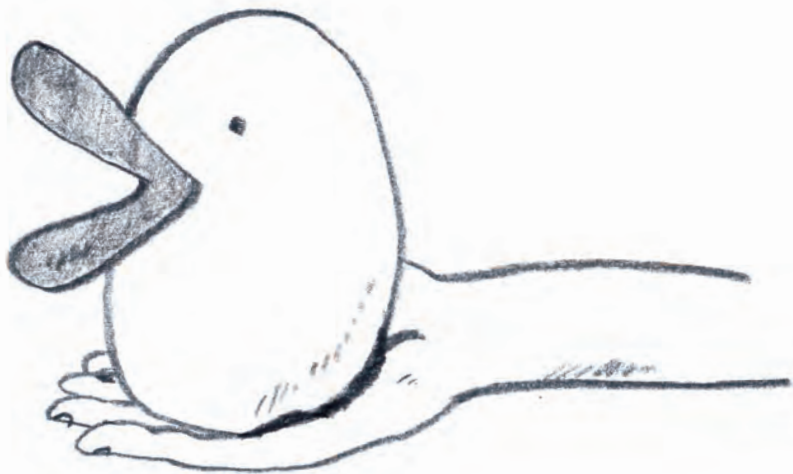
高知上空から中継する坂元龍斗アナ



疑似特番で被害を伝える山本悠美子アナ

関テレと人

東には日本一長い天神橋筋商店街、
西には家族や恋人の憩いの場・扇町公園、
関テレの周りは常に笑顔と活気に溢れています。
関テレは人々の暮らしの中にあり、
人と人との豊かな関わりを大切にしながら、
これからも活動していきます。











企業が存続するためには、社会が健全であることが絶対条件です。

関西テレビは企業市民の一員としてよりよい社会の実現に寄与します。

昨年7月の組織変更で在阪テレビ局では

いち早く専門部署としてCSR推進部を設け、

今までの活動をさらに発展させるべく取り組みました。

また、全社員にCSRマインドを浸透させるため、

各部署が参加する「心でつながるプロジェクトチーム」を設け、

その推進エンジンとしています。



1. メディアリテラシー推進活動の取り組み

関西テレビのメディアリテラシー推進活動は本格的に取り組み始めて6年になります。さまざまな社員が関わることで、自らの学びにもなっています。

高校生映像制作支援

撮影機材や編集用パソコンなどを高校の放送部に寄付し、映像制作について当社スタッフが直接制作支援を行うことで、体験から様々なことを学んでいただけます。今年度は、京都府立田辺高校の放送部と一緒に「一休さんに学ぶ」という作品を制作しました。

このプロジェクトの2012年度作品「なま部の日常」(兵庫県白陵高校)が「第33回地方の時代映像祭」において高校生部門・優秀賞を受賞しました。また、奈良女子大学附属中等教育学校との連携授業による作品「おじいちゃんと私」も同・優秀賞を受賞しました。



第33回地方の時代映像祭受賞の様子

出前授業

社員が小中学校、高校を訪れ、テレビ局の仕事や番組制作の際に大切にしていること等を伝えることで、青少年にメディアの裏側について学んでもらいます。今年度は9校で行いました。



アナウンサーによる聖パウロ学園光泉中学校での出前授業

オープンスクール@カンテール

年に1回メディアリテラシー推進活動の一環として、関西テレビ社屋で行う公開授業「オープンスクール@カンテール」。今年度は開局55周年にちなみ記念ドラマ「Y・O・Uやまびこ音楽同好会」の制作現場に6人の大学生が入り学びました。公開授業では、社員スタッフと共に大学生がドラマ制作の裏側について語りました。



オープンスクール@カンテール2013の特別公開授業

ドラマ「Y・O・Uやまびこ音楽同好会」ロケ現場で学ぶ大学生スタッフ



照明ディレクターによるKTC中央高等学院での出前授業



明石市立中崎小学校での出前授業

テレビ番組での放送

これらの活動を、毎月1回「テレビのミカタ」(第3または第4日曜朝6:30~7:00)で放送することにより、多くの方にお伝えしました。

出前授業を 終えて



今回、明石市立中崎小学校で出前授業を行って気づけたのは、教えることは、自らの学びにもなるということ です。

子供の心に触れて、柔軟だった部分の記憶が蘇ってきました。社会で日々仕事をしていく中で固まった考え方になって来ていたことに客観的に気づけて、自分がどういう見方をしていく方がいいのかなど、仕事にフィードバックできることがありました。

授業では、桃太郎の話を取り上げ、考え方の視点を変えて、桃太郎側ではなく、鬼の視点からの物語を考えていくというワークショップをやりました。伝えたかったのは、社会にはいろんな視点があるよ、

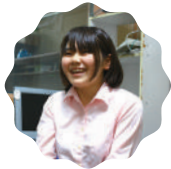
という事なんです。以前マレーシアで特派員をしていた頃、イラク戦争がありました。そのとき、アメリカ側とイラク側、双方の報道の視点が全く異なることを経験しました。その時には非常に心が動きました。その事もあり、物事にはいろんな視点がある事を教えたかったです。また授業の様子については、出前授業をした子供たちは、多感な時期の子供たちばかりでして、普段はちゃんちゃん子だと思われている子が、素直な心でとても柔軟なおもしろい発想をしてくれたり、逆に、優等生といわれている子が先生の顔色を伺ってしまったり、自由に発言しないという事もありました。



関西テレビ社長室
経営戦略部次長(元報道部勤務)

敷田 信之

Nobuyuki Shikita



京都府立田辺高等学校3年

中井 碧優

Miu Nakai

半年かけて地元の有名人の一体さんにちなんだ「一体さんに学ぶ」という作品を制作しました。今まで全然機材を触ったことが無いし、パソコンも全く使えない状態でしたが、いろんな事を教えてもらって、こんなことも出来るんやっと思えました。学んだことの一つに、

今までは、「時間が無い」と、やる前から言い訳をしてしまっていたのですが、今回実際やってみて限界まで頑張ってから口にするべきだと思えました。また、自分一人でやるうとするのではなく、周りにも

仕事を振る事も大事なんだと気づきました。制作過程では、地元の人にもインタビューをする事があって、その中で何度もインタビューを引き受けてくれる方がいて、その方が学校の文化系クラブ発表会にも来てくれたり、また市役所の方も貴重な資料を貸してくれたり



映像制作支援 プログラムを体験して



2. コミュニティへの参画の取り組み

地域催事の主催・後援などに加え、当事者の方々と共同してそれを構築していきながら、顔の見える関係性、挨拶をかわす関係性を築くことに取り組みました。



イザ!カエルキャラバン in 北区

2013年5月5日(祝)

場所:関西テレビなんでもアリーナおよびアトリウム一帯
主催:大阪市北区社会福祉協議会・関西テレビ

大人も子供も楽しめる地域防災催事として、24のプログラム、120名のボランティアスタッフ、3,500名の参加者を得ました。



地域ボランティアのみなさん



防災体験プログラム
「毛布で担架タイムトライアル」

第14回天満音楽祭

2013年10月6日(日)

場所:大阪市北区一帯

主催:天満音楽祭実行委員会 後援:関西テレビ

「音づくり、町づくり、仲間づくり」を掲げ、31会場、300バンドが出演。
来場者3万人を数える国内有数の市民音楽祭に実行委員として参加しました。



OAPプラザでの演奏



JR大阪駅 時空の広場でのライブ



天神橋筋商店街でのライブ



関テレガラボン募金



旧桜ノ宮公会堂での演奏

FNSチャリティキャンペーン ネパールフェスティバル ～光のまつり～

2013年10月20日(日)

場所: 関西テレビ なんでもアリーナおよびアトリウム一帯
主催: 関西テレビ

「FNSチャリティキャンペーン」の支援対象国についてより深く知ることを目的に行った催事。地域に住むネパールの方々やさまざまなNPO、NGOの方々との関係性を築きました。



「なんでもアリーナ」でのネパール音楽のライブ



ネパールの子供の遊びを伝えるワークショップ

ネパールを支援するNPO、NGOのブース

第4回 中崎町キャンドルナイト

2014年2月8日(日)

場所: 大阪市北区中崎町一帯およびカンテレ扇町スクエア
主催: 中崎町キャンドルナイト実行委員会
後援: 関西テレビ

キャンドルを灯し、環境意識を高め、地域の活性化を促進する手づくり感あふれるハートウオーミングな催事「中崎町キャンドルナイト」に実行委員として参加しました。



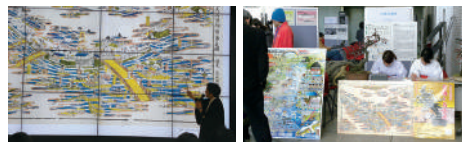
新施設インタラクティブステージでの関西大学による絵巻物の説明

淀川今昔明日ものがたり

2014年2月22日(日)～23日(日)

場所: カンテレ扇町スクエア インタラクティブエリア
主催: 関西大学・関西テレビ

関西大学所蔵、江戸時代中期の大阪画壇の巨匠による「淀川」を描いた大作を最新テクノロジーで蘇らせることを縦軸にとり、現在の淀川で活動する団体が一堂に会し、活動報告することを横軸にすることで、地域の活性化に取り組んだ催事です。



大阪天満宮の権禰宜さんによる昔の天神祭の紹介

淀川ゆかりの団体による活動紹介ブース

地元が 関西テレビに 期待すること



期待する事はたくさんあります。一番身近にいるマスメディアである関西テレビさんと一緒に展開できれば、今まで以上に大きな事が出来るのは十分想像出来るので、期待しています。街に足りないのはコミュニケーションです。そんな中で商店街は他人同士が声かけができる、交流出来る場であると思っています、行き来する他人同士がお互い柔らかい接し方でコミュニケーションが出来れば、もっとゆったりほのぼのした街になるのではないかと思います。商店街には外国の観光客も増えてはいますが、やはり、自分の店では地元のお客さんが多く、買い物ついでに寄ってくれたお客さん

との世間話もゆっくり丁寧に聞くようにしているのです、物を買わなくても話をしに店に来てくれるだけでありがたいと思っています。商店街のように気軽に他人同士世間話が出来ると、そういう風な関係を関西テレビさんとも築ければと思います。商店街のイベントをニュースとして伝えてくれるのは嬉しいのですが、一番望んでいるのは、地域の祭りに一緒に参加してもらったりとか、会話や世間話が出来るとような放送局であってほしいですね。昨年から始めた、天神天満阿波おどりにも参加してもらって、一緒に踊りたいですね。



天神橋筋三丁目商店街
振興組合副理事長

築部 健二

Kenji Chikube



大阪市北区役所
魅力創造課課長代理

加藤 満代

Mitsuyo Kato

北区役所魅力創造課では、区民の意見やニーズを反映した企画・立案をして北区の魅力を高めることにより、区民のみなさんがまちへの愛着を深め、まちを誇りに感じていることをめざしています。今は学校や各種会合に積極的に出向きお話を伺ったり、月一回の「わがまちサロン」を開催し、地域のみなさんの取り組みについて話していただく機会を設けています。そこで地域住民同士の新しい繋がりが生まれれています。その場でも、前向きで建設的な「夢のある困り事」(＝実現困難だが、実現でき

ば皆さんに喜んでいただけること)をどういう形で支援しあげられるか、私達が考え形にしていくことが重要だと感じています。

そんななか、関西テレビのCSR推進部さんが「わがまちサロン」に参加くださり、そこから繋がりを持たせていただきました。関西テレビさんの参加によりみなさんのネットワークがさらに広がったと感じます。私も職員が出すアイデアには限りがありますが、いろんな方とお話することで、「こういうニーズもあるんだなあ」とか、「この団体とこの団体が協力して

いただければ、もっといいことが起きるんじゃないかな」と、毎月のお話から企画の種になる知恵をいただいています。

関西テレビさんには、これらの地域の活動・イベントの情報を放映していただいたり、子どもたちに遊びを通じて防災を学んでもらうイベント「イザ！カエルキャラバン！」でご支援・ご協力いただいたりなど、情報発信のプロが社会貢献活動に参画くださることを非常に心強く思っています。

行政が
関西テレビに
期待すること





関西大学 社会的信頼システム
創生センター センター長・社会学部教授

与謝野 有紀

Arinori Yosano

大学が
関西テレビに
期待すること



天神橋筋商店街のなかにアトリエを持って、社会的信頼学という新しい学問分野を展開しようとしています。街の人を繋いでいく事で、社会問題を解決したり、地域の経済効果を上げるような活動です。そうした活動を通じて、関西テレビのCSR推進部と繋がりが持てました。その後、同じ方向を目指す者同士、さまざまなコラボレーションを行ってきました。2月に

行った催事「淀川今昔明日ものがたり」は、その成果の一例です。また、大学とテレビ局は「人を育てる」という面で似ているところもあります。テレビ局のCSRの役割というのは、番組を作るだけではなく、番組を見る人を育てていく、例えば、こんな番組を見たいという気持ちを持っている人々を集めて、新しい番組の基礎を作る。そういった部分も担えるのではないかと思います。現状の番組では

満たされない人達がいいます。彼らが見たい番組は、「本当はこれなんだ！」っていう部分をすくいあげて、それが番組の制作にも影響を与えていくようなことができるのではと思います。テレビ局が結節点になって、さまざまなリソースが集まり、持っているノウハウがそこに活かされ、よりよい社会が築けていければ素敵ですね。



ネパールフェスを を終えて



10月20日に「関西テレビなんでもアリーナ」で開催されたネパールフェスティバルに、台風の中、あれだけたくさんの方が来てくれたのも、関西テレビの各担当の方達の努力が実ったのだと思います。人を集めるのが難しい中、あの一日で、大学関係、ボランティア、ミュージシャンなど様々な分野の人が集結し、また一人一人のファンの支えがあった事が成功につながったんだと思います。関西テレビが種を蒔いてくれて、今回のネパールフェスティバルが成功しました。

のやないかと感じます。例えば花博の後、使われていない鶴見緑地公園のネパール館をきれいにし、そこでイベントをやるとか、その活動を他の国の団体とも共有して広げていくとか、いいなと思う事はいろんな人達と共有して、形にしていきたいと思うんです。

ほんとの意味での社会貢献は、お金じゃなくて、人と人とのつながりが出来て、そこにみんなの笑顔が溢れている。どんどんコミュニケーションションをして、いいと思う事を共有すること、そういう本当の幸せをみんなで作る事だと思いますね。



ネパール商工会議所

ディネス シュレスト

Dinesh Shrestha

3. 環境への取り組み

社内で取り組めるプロジェクトと外部プロジェクトの活性化の両面で、関西テレビだからこそできる活動を展開しています。

ダイヤモンドカップゴルフ 2013

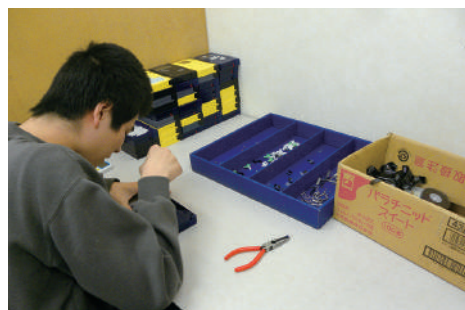
毎年恒例のスポーツ催事「ダイヤモンドカップゴルフ」においてチャリティ活動をおこない、その一部を日本ゴルフツアー機構が取り組む環境保全活動「はじめの第一歩!」に寄付しました。

LEDライトへの切り替え

全フロアの廊下照明と、全スタジオにあるブロードライト照明をLEDに切り替えることによりCO₂の排出をおさえました。



LEDのスタジオ照明



廃棄テープの分解作業

廃棄テープリサイクル & アートリユースプロジェクト

年間1万本におよぶ廃棄テープをリサイクルしています。データ消磁後のテープは、金属は金属に、プラスチックはプラスチックに、テープ部分は固形燃料に生まれ変わります。その最初のステップである分解作業を障害者の方にご協力いただき、少しでも彼らの仕事として役立てていただいています。また、部品の一部を障害者のアート活動の素材として活用しています。



分解された廃棄テープ

公益信託グリーンプログラム21 みどり基金

「大阪を緑あふれる潤いの街にしよう」との趣旨のもと、関西テレビと産経新聞社の提唱で1993年に設立された公益信託。過去50を超える団体に助成を行ってきました。

今年度は、社団法人大阪青年会議所などが行う「淀川「花は咲く」プロジェクト」に助成しました。



淀川沿いの不法投棄地が菜の花で満開に



淀川「花は咲く」プロジェクト「みどり基金」贈呈式に集まった参加者



4. 人権への取り組み

CSR推進部だけでなく報道部など他部署とも連携して、あらゆる人権が尊ばれる社会の実現に向けて取り組んでいます。

世界の子供たちの笑顔を応援

関西テレビはフジネットワークの一員として公益財団法人日本ユニセフ協会とともに、1974年より「世界の子供たちの笑顔のために」をテーマにFNSチャリティキャンペーンを行っています。第40回目となる今年度はネパール連邦民主共和国の子供たちを支援しました。

視聴者の方々からの募金に加え、事業催事での募金や、社内の不要書籍を売却することでの募金活動など、全社的な取り組みになっています。



55周年記念イベントでの募金活動



児童虐待防止協会での電話相談

児童虐待防止活動への支援

関西テレビの報道キャンペーン活動をきっかけに、1990年、子どもへの虐待の相談救助活動を目的とする「児童虐待防止協会」が設立されました。「子どもの虐待ホットライン」という電話での相談窓口をもうけ、虐待に悩む母親の相談に応じたり、子どものSOS受け止めたり、虐待防止に向けての活動を支援しています。

障害者の活動支援

「廃棄テープリサイクル&リユースプロジェクト」において、リサイクルの際に必要な分解作業を、社会福祉法人松花苑の障害者支援施設「みずのき」の通所部「すずらん」に通う人たちにご協力いただいています。

また、分解された部品の一部をアーティストの指導のもと、障害者のアート活動の素材に利用しています。12月の梅田スカイビルで行われた展示会に、その試作品を展示しました。



アート制作作戦会議



「障害者を支援する企業展示会」への出展作品



みずのき美術館

奥山 理子

Riko Okuyama

使用後のビデオテープに、新しい価値を生み出す事、そこには、私たちの施設を利用している障害のある人たちが能動的に関われる場や、システムを作っていくことが含まれているので、非常に取り組みがあります。実際このプロジェクトを始めて1年程経ちますが、始めてみてすごくおもしろいと思ったことは、普段は障害者の方の携わる作業というのが単調で、その上ノルマや完成度は求められるため、職員がかなりの割合をサポートすることが必要になります。でもこのプロジェクトはそうではないんです。作業はただビデオテープを解体するだけなんです。

ですが、どんどんビデオテープを分解していく、つまり壊すことが仕事なんです。それがみんなの気持ちを引きききとさせ、楽しく作業をしていく事が出来ているんです。色とりどりのテープたちが分解されながらいろんな形になって溢れていく、その感覚が彼らを非常に楽しくさせています。さらに、この楽しい事が「仕事」なんだというところが、彼らの喜びになっています。

また、分解したテープの一部をアート作品の素材として活用したり、手にしたくなるような商品にしていくという試みに関しても、アーティストやデザイナーが興味を持ってくれて作品や製品をつくり、たくさんの方がそれを楽しむ。その作業工程の一つに障害のある人たちが確かに関わり、それをCSR活動として発信していくこと。俯瞰的に見ていくと、全てがつながりを持って目的に向かって進んでいることが分かります。障害のある人の関わり方については、支援する者にも、社会にも、課題は数多くあります。しかし、私たちと変わらないこの社会に生きている者として、それぞれが自分合った場所に存在し、自然に関わりあっていくことが当たり前となる社会になっていけばいいなと思っています。

廃棄テープリサイクル & アートリユースに思うこと



NPO法人が 関西テレビに 期待すること



私が代表を務めるNPO法人 Co・to・hanaでは、デザインの力を信じ、個人、団体、企業、行政の皆様と力を合わせて、地域や社会の課題解決に取り組んでいます。その中の主な取り組みの1つに、シンサイミライノハナプロジェクトがあります。これは震災についての経験や記憶などメッセージを集めて、黄色い花のオブジェにして街中に飾ることで、震災の経験を未来に伝えようというものです。震災の活動をしていて、大きな気づきがありました。それは、関西という地域は、阪神・淡路大震災の経験から人と人のつながりを大切にし、ボランティア活動や社会貢献事業がとて盛んに行われていると

いうことです。これは他の地域よりも先進的で「文化」でさえあると思います。関西テレビに期待する事は、そんな地域に根ざしたテレビ局だからこそ、課題解決に取り組むさまざまな団体と連携し、「文化」をともに育てていくことです。関西テレビには、メッセージを伝える情報発信力があります。地域の豊富なデータベースがあります。そして強い絆で結ばれたネットワークがあります。その強みを最大に活かして、関西テレビが地域社会の1つのハブとしての役割を担っていただき、関西の様々な活動団体と連携して、地域を元気にする取り組みをさらに広げていきたいと思っています。



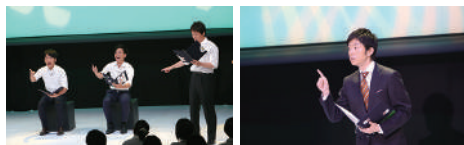
NPO法人コトハナ
西川 亮
Ryo Nishikawa

5. アナウンサーによる取り組み

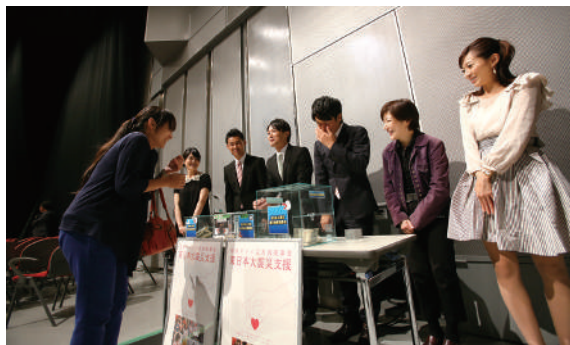
関西テレビの顔であるアナウンサーたちも様々な活動を通じて貢献しています。

アナウンサー朗読会

年1回、普段のニュースや番組とは違う、アナウンサーの一面を間近でみていただく朗読会を行っています。2011年には「明日への手紙」と題して、東日本大震災の被災地への思いを込め、岩手県在住のミュージシャンをお招きし、ガレキの中から奇跡的に出てきた和太鼓と朗読のコラボレーションを行いました。



アナウンサー朗読会



キッズプラザでの絵本の読みがたり

絵本の読みがたり

関西テレビと同じビルにあるチルドレンミュージアム「キッズプラザ大阪」で定期的に絵本の読みがたりを行っています。子どもたちの創造力を育み、子どもと大人が同じ時間を楽しみ、繋がりを生み出すお手伝いをしています。



関西テレビ前での街頭募金

東日本大震災被災者支援の街頭募金活動

震災直後の2011年4月から、関西テレビ本社屋前で街頭募金活動を行っています。

また「関西テレビ災害救援募金」キャンペーンスポットを放送するなど全社を挙げて支援活動を続けており、皆さまからお預かりした募金は、現在、日本赤十字社を通じて義援金として役立てて頂いています。

6. 次世代育成の取り組み

公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団

昭和53年に開局20周年を記念して「野外活動を通じて健全な青少年を育成する」目的で設立した財団で、春・夏のキャンプを通じて自然の中で豊かな心とたくましい体を育む目的で運営しています。また子どもたちを指導する青少年リーダーの育成にも力を入れ、現在まで約800人のリーダーを輩出しました。



わくわくキャンプ参加者の小学生と青少年リーダー



わくわくキャンプでのキャンプファイヤー



若狭マリンキャンプでの手づくりイカダ

7. 視聴者の皆さまとともに

視聴者の皆さま方の貴重なご意見を賜り、番組に反映していくために「モニター制度」を設置し、日々放送される番組に対するご意見は「視聴者情報部」にてお伺いしております。この1年間での総数が72,363件、問い合わせが33,749件、苦情が9,901件、要望や感想が21,334件、情報提供・その他が7,379件のご意見をいただきました。

これらは月1回放送の番組「月刊カンテレ批評」(2014年4月からは月2回放送の「カンテレ通信」)においてご紹介しています。

また、テレビCMは繰り返し放送され、視聴者の皆さま方に大きな影響を与えます。その結果、皆さまに不利益を与えることがないよう、法令・法規やさまざまな自主規制を設けて内容、表現について厳しくチェックしています。

8. 内部統制システムおよびリスクマネジメント体制

2008年5月の取締役会で決議した「内部統制システム基本方針」に基づき取り組んでいます。この決議では、取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、教育・研修、内部通報者保護のためのホットラインの設置、内部監査の設置などが盛り込まれています。各部署にコンプライアンス責任者を設置するとともに、「リスクマネジメント

規定」に基づき、常勤役員からなら「コンプライアンス委員会」のもとで、放送に関わることは「放送倫理会議」で、放送外のことは「リスクマネジメント会議」で取り組んでいます。

また、「情報セキュリティ管理規定」「情報資産取扱要領」「文書管理規定」などによりセキュリティの強化に努めています。



